自然に学ぶ技術論		講義	教授 藤井 浩	
科目カテゴリー	国際ビジネスコース、会計 ファイナンスコース、経 営・経済コースの選択必修 科目	科目ナンバリング	23111101	

1. 授業のねらい・概要

未曾有の被害をもたらした東日本大震災と原発事故から 10 年たった今、新型コロナウイルスの感染拡大が人類を苦しめている。高度化し続けてきた科学技術は、私たちの社会を豊かにする一方で、さまざまなきしみを生み、時に重大な危機をもたらしている。そんななか、長い時間をかけて蓄積されてきた先人の技術、知恵をもう一度見直そうという機運が高まっている。本講では、その数多くの事例のなかから、手作業による座繰り製糸技術、明治期のお雇い外国人、デ・レイケが指導した石積み堰堤、ドイツの世界的建築家、ブルーノ・タウトが日本で手掛けた工芸作品など群馬に深く関わる技術を取り上げる。それらに共通するのは地球環境を守り、生命の安全を最優先する技術思想であり、高度技術社会において最も重視すべき姿勢と言っている。その基本をわかりやすく解説していく。

2. 授業の進め方

- ・毎回、レジュメを配布、画像や資料をもとに解説する。
- ・授業中、受講者には、紹介する技術、人物に対する感想、意見、質問を求める。
- ・毎回、講義の最後に課題を出すので、それに対する回答、コメント、質問（短文）を書いて提出する。
- ・試験期間中にレポートを提出する。テーマは講義内で知らせる。

3. 授業計画

1. 今、なぜ「自然に学ぶものづくり」なのか 2. エコロジカルな産業・蚕糸業の歴史と文化 3. 座繰り製糸技術の真価 4. 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録と蚕糸業の存続 5. シルクカントリー群馬キャンペーンが生んだもの 6. 最先端技術・GM蚕の可能性 7. 「砂防の父」デ・レイケの遺産 石積み堰堤の強靭さ 8. デ・レイケの生涯	9. デ・レイケが目指したもの 10. ブルーノ・タウトが愛した日本の手仕事 11. ブルーノ・タウトと高崎の工芸運動 12. 「タウト日記」にみる「ものづくりの哲学」 13. 市民科学者・高木仁三郎（前橋市出身）の仕事 14. 高木仁三郎の宮沢賢治論 15. 自然に学ぶ技術・ぬくもりの技の可能性
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、授業で取り上げる技術や人物について、可能な範囲で調べ、意見、感想を述べられるようにしておく。30分程度。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回提出してもらったコメントや質問等に対して、次の授業で評価、回答し、必要に応じて解説する。また、試験期間中のレポート提出時に採点・評価のポイントを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- ・科学技術の本来の在り方を学び、実社会で不可欠な技術思想の基礎を身につける。
- ・激甚化する自然災害などに備える知識、考え方を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

レポート（50%）、毎回提出するコメント等（30%）、授業中の意見等（20%）。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメを配布。参考文献はこの中で挙げる。

9. 受講上の留意事項

授業で取り上げる技術開発、環境問題、自然災害など関するニュースに関心を持ち、知識を増やし、深めるよう心掛ける。また、受講学生との意見交換等を重視するため、受講人数を30名程度に制限する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。新聞社の記者、論説委員として、絹産業やデ・レイケ、タウトに関わる取材を重ねてきた。そうした経験をもとに講義を進める。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。